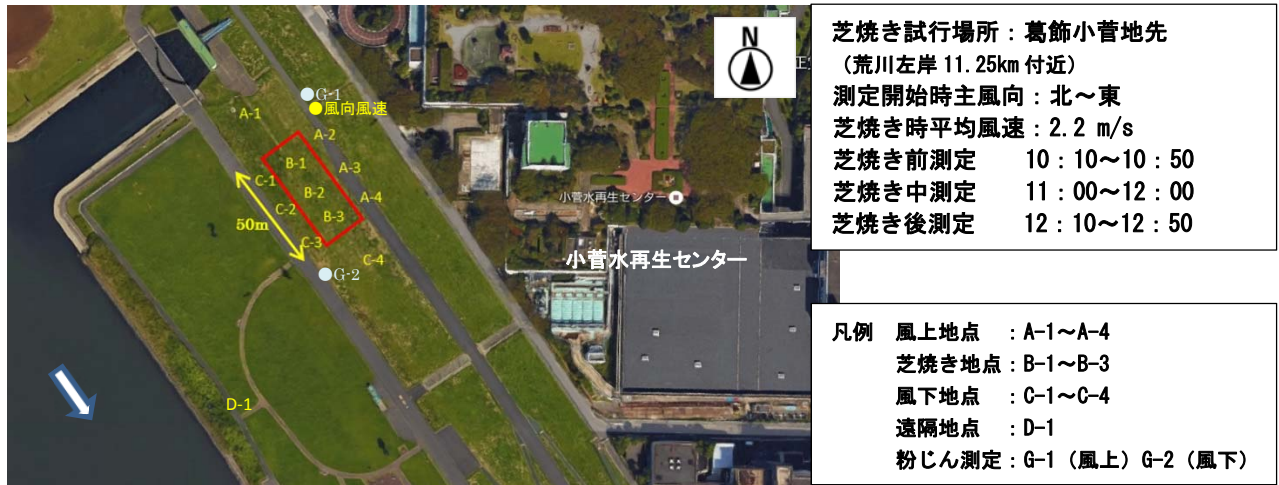


芝焼き現地試験の放射線等測定結果の概要

平成 29 年 2 月 28 日に芝焼き現地試験を実施し、芝焼き前、芝焼き中、芝焼き後の周辺環境の放射線等の測定を実施しましたので、その結果をお知らせいたします。

1. 測定地点と測定時間



2. 芝焼き現地試験の測定結果

(1) 芝焼き現地試験に伴う各測定地点の放射線量測定（空間線量率及び表面線量率）

①空間線量率について

現地試験の周辺 12 ヲ所（芝焼き中は 9 ヲ所）で芝焼き前、芝焼き中、芝焼き後の空間線量率を測定したところ、各地点において、測定誤差の範囲を超える有意な測定値の変化は観測されませんでした（表-1）。したがって、芝焼きを実施しても周辺の地点を含めて、放射性物質の移動は起きていないことが確認できました。

表-1 空間線量率測定結果

測定区分 測定機器	空間線量率 (μSv/h)						
	NaI シンチレーションカメラ (指示値変動±15%)						
測定地点	芝焼き前	芝焼き中	芝焼き後	測定地点	芝焼き前	芝焼き中	芝焼き後
A-1	0.087	0.082	0.084	C-1	0.086	0.088	0.084
A-2	0.094	0.098	0.091	C-2	0.080	0.080	0.079
A-3	0.094	0.089	0.086	C-3	0.080	0.079	0.075
A-4	0.091	0.091	0.092	C-4	0.085	0.086	0.091
B-1	0.087	—	0.081	D-1	0.081	0.078	0.077
B-2	0.087	—	0.088	(3 回測定)	0.078	0.077	0.077
B-3	0.083	—	0.084		0.076	0.076	0.074

②表面線量率について

芝焼き前、芝焼き後の表面線量率を測定したところ、測定誤差の範囲を超える有意な測定値の変化は観測されませんでした（表-2）。したがって、芝焼きを実施しても放射性物質の移動は起きていないことが確認できました。

※1：表面線量率は芝焼き前後での変化をみるために、地表 1 cm の高さで測定しております。

表-2 表面線量率測定結果

測定区分 測定機器	表面線量率 (μSv/h) (※1)		
	GM サーマイター (指示値変動±20%)		
測定地点	芝焼き前	芝焼き中	芝焼き後
B-1	0.45	—	0.42
B-2	0.48	—	0.44
B-3	0.46	—	0.50

(2) 芝焼き中の粉じんに含まれる放射能（放射性物質）濃度の確認

G-1（風上）G-2（風下）の 2 地点において粉じん濃度等を測定した結果を以下の表-3 に示します。

表-3 粉じんの測定結果

調査地点	粉じん濃度 (mg/m ³)	粉じん中の放射能濃度 (Bq/m ³)				摘要
		セシウム-134	検出限界値	セシウム-137	検出限界値	
G-1 (風上)	0.057	検出限界値未満	0.01	検出限界値未満	0.01	柴田科学製 HV-500F 吸引速度：500L/min.
G-2 (風下)	0.430	検出限界値未満	0.01	検出限界値未満	0.01	

①粉じん中の放射能濃度

粉じん中に含まれる放射性物質（セシウム 134 及び 137）の濃度を測定したところ、いずれも、風上、風下ともに検出限界値未満（0.01 Bq/m³ 未満）であり、粉じん濃度が高い風下側でも、放射能濃度は十分低いことが確認できました。なお、事前に行った室内試験で、代表的な 5 種類の植物の焼却灰の放射能濃度はすべて検出限界値未満（40～64 Bq/kg 未満）であり、放射性物質が含まれていたとしても、環境省の定める「廃棄物を安全に処理するための基準である 8,000 Bq/kg の 100 分の 1 以下であることを確認しています。

なお、以上の結果につきましては、埼玉大学大学院理工学研究科永澤明名誉教授・同井上直也教授から、「放射線量率は芝焼き前後で変わらず、空間線量率は十分小さく、放射性物質の濃度についても検出限界値未満であり、芝焼きを行ってもその状況は変わりがないことから安全上問題ない」との見解をいただいております。